

# 平成24年度 【 学園研究費助成金＜A＞ 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ クロヤナギハルオ  
氏名 黒柳晴夫

研究期間 平成24年度

研究課題名 グローバル化時代における地域づくりと観光—アジアと日本の比較研究—

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	黒柳晴夫	文化情報学部	教授
研究分担者	米田公則	文化情報学部	教授
研究分担者	武長延行	文化情報学部	教授
研究分担者	阿部純一郎	文化情報学部	講師

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は、都市と農村の相互補完・共生による豊かな自然環境の保全を目標として、地域の様々な資源の観光資源としての活用による地域づくりの可能性と方策を、日本(宮崎県内と山口県内)とアジア(インドネシアのジョクジャカルタとタイのチェンマイ)における事例とその比較研究を通して検討しようとしたものである。世界的にみると、1990年代以降、自然を破壊した大規模開発によるマスツーリズムが見直されるようになり、地方のまちや農業と農村の衰退傾向を食い止め、さらにそれらを再生させるために、地域の資源を活用したまちづくりや農村の活性化に関心が向けられるようになった。本研究は、その実証研究を目指すものである。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- ①まず、研究課題と研究方法を共有化するために先行研究の検討をし、地方における自然的・歴史文化的資源を活用した観光開発や地域づくりに関する研究動向と課題の理解に努めた。
- ②これに基づいて、事例研究の調査対象地として、国内では、歴史文化的資源の活用に取り組んでいる宮崎県日南市の油津・飫肥地区(阿部担当)と山口県周防大島町(武長担当)を、また海外では、農村の自然資源を活用したグリーン・ツーリズムに取り組んでいるインドネシアのジョクジャカルタ(黒柳担当)とタイのチェンマイ(米田)の農村を、それぞれ選定した。
- ③夏休み、冬休み、あるいは年度末の授業に支障のない時期を選んで、各自が上記の調査地を訪問し、資料の収集と関係者や関係行政機関の担当者に聴取調査を実施した。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

研究参加メンバーは、これまで各自がそれぞれの視点から農村社会の持続的発展、まちづくり、地域おこし、観光政策などの研究を重ねてきた。黒柳は長年インドネシアのジャワ農村をフィールドに、開発と農村社会の変容過程の社会学的研究をし、米田は情報化社会におけるまちづくりの研究をし、最近ではタイの地方都市にまでそのフィールドを広げており、武長は各地の行政やNGOなどに協力して地域づくり、地域おこしの実践的研究を進め、そして阿部は日本と台湾の観光政策の歴史社会学的研究の実績を踏まえて、観光によるまちづくりの実践的研究を進めている。このような各自の研究実績から、今回地方のまちや農村の衰退傾向を食い止め、逆にそれらを再活性化させていくことの可能性とその方策が共通の課題となった。これが本研究の動機であり目的であるが、各メンバーが共有した視点は、地域における自然的・歴史文化的資源への着目と掘り起し、それらの資源の活用とまちづくり、自然に満ちた環境の保全等である。そして、この研究目的を明らかにするために、各メンバーはそれぞれ調査対象地を分担し、そこでのフィールドワークを通して実証研究をすることにした。まず、地域に存続してきた歴史文化的資源の保存と活用によるまちづくりに取り組んできた国内の事例として、阿部が宮崎県日南市の油津・飢肥地区を、また武長が山口県周防大島町を、それぞれ選定した。また、農村の自然資源の保全と活用による農業と農村の活性化に取り組んできた国外の事例として、黒柳がインドネシアのジョクジャカルタ郊外の農村部を、そして米田がタイのチェンマイ郊外の農村部を、それぞれ選定した。現地調査の実施は、学内業務などの事情から当初の計画より遅れて2012年12月または2013年2月に実施された。そのため、まだ調査地ごとに調査してきた結果をまとめる作業を進めているところである。その作業を待って、今後、各調査地の成果を比較検討して、日本とアジアの地域資源を活用とした観光による地域づくり、農村再生の新たな取り組みと、それらの特徴を明らかにする予定にしている。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①地域資源の保全と活用	②地域資源の観光資源化	③観光資源によるまちづくり・むらづくり	④グリーン・ツーリズム
⑤自然環境の保全	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

黒柳晴夫	「日本とジャワにおけるグリーン・ツーリズムの展開と課題—ジョクジャカルタ特別州バントゥール県内のグリーン(アグロ)・ツーリズムのモデルを考えるために—」 椋山女学園大学研究論集(社会科学編) 2013年3月 第44号 73～85頁
黒柳晴夫	「ジャワ農村の地方自治に関する調査ノート(2)—ジョクジャカルタ特別州バントゥール県内3カ村の事例—」 椋山女学園大学文化情報学部紀要 2013年3月 第12巻 95～115頁
米田公則	「グローバル化時代におけるタイ国の現状と課題—日本・タイ比較社会学的研究・序説—」 椋山女学園大学文化情報学部紀要 2013年3月 第12巻 25～34頁